

1 現状と課題の分析

<p>①地域概況</p>	<p>永覚新町商店街はトヨタ自動車本社から3キロ程南に位置する商店街で、昭和40年代半ばより社宅中心に形成された。現在は36店舗からなり、500メートル四方に店舗が点在している。 本商店街が位置する地域では戸建ての家を建てる人達が増え人口は増加傾向にあるが、豊田市は車社会であり、周辺に大型スーパーができるにつれて、商店であったところが住宅になるなど、商業集積度が低くなってきている。生鮮品、衣料品、日用品などスーパーと競合する店が無くなり、買い回り品中心の店は生き残っているが、来街者は、必要な物を買う為に行きつけの店に立ち寄るだけでそのまま帰ってしまう傾向にある。 永覚新町の居住者の平均年齢は37.57歳、高齢化率は16.2%であり、いずれも豊田市全体よりも低くなっている（平均年齢41.66歳、高齢化率22%）。また、本商店街がある末野原学区では「住みやすい」、「どちらかという住みやすい」と答えた住民は76.7%であり、豊田市全体の数値72.3%を上回っている（市民意識調査より）。</p>			
<p>②最寄り駅</p>	<p>愛環鉄道末野原駅</p>	<p>③最寄り駅からの距離</p>	<p>500m</p>	
<p>④商店街区域</p>	<p>永覚新町</p>			
<p>⑤商店街区域内の店舗数</p>	<p>50店舗</p>			
<p>⑥うち組合加入店舗数</p>	<p>32店舗</p>	<p>⑦うち空き店舗数</p>	<p>1</p>	
<p>⑧商店街の加入店舗構成</p>	<p>生鮮三品（1店 3.1%）、衣料品（0店 0%）、その他小売り（13店 40.6%）</p>			
	<p>飲食店（4店 12.5%）、サービス（3店 9.4%）、その他（11店 34.4%）</p>			
<p>⑨商店街の特徴、強み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・商店街が主催する夏祭り、にぎやか市等は地域の方々にも認知され、親しまれるイベントとなっている。 ・「安心・安全なまちづくり」に貢献。防犯カメラやAEDの設置事業を通じて、地域のコミュニティの担い手として欠かせない存在となっている。 ・本商店街の強み <ol style="list-style-type: none"> (1) 理事会を中心とした構成メンバーの結束力 (2) 次世代の商店街の担い手である若手の育成 (3) 地域と密着しており地域住民や地域企業も各種イベントの運営に参加 			
<p>⑩来街者 (主なもの一つに○)</p>	<p>高齢者</p>	<p>主婦</p>	<p>○ ファミリー</p>	
	<p>若者</p>	<p>観光客</p>	<p>その他（ ）</p>	
<p>⑪来街者交通手段 (主なもの一つに○)</p>	<p>○ 徒歩</p>	<p>自転車</p>	<p>バス</p>	
	<p>自家用車</p>	<p>鉄道</p>	<p>その他（ ）</p>	
<p>⑫来街者の来街に要する時間 (主なもの一つに○)</p>	<p>○ 15分未満</p>	<p>15分以上30分未満</p>	<p>30分以上1時間未満</p>	
	<p>1時間以上</p>			
<p>⑬商店街等が抱える課題・問題点</p>	<p>車社会、住民の高齢化、国際化、インターネット社会等への立ち遅れ。商店街の核となる店がない。イベントにより商店街および個店をPRしたいが、集客効果が希薄。商店街組織の若返りが進まない。組合員数の減少。以前より上記課題は認識し、対応策を実行しているが効果が薄れつつある。</p>			
<p>⑭地域住民ニーズ</p>	<p>安全で新鮮な食材の提供、店舗数の増加、気軽に入れる雰囲気作り、日用品の買い物、付加価値の高い商品の提供、店員の商品知識の向上や接客サービスの向上、気軽に歩くことができるような街づくりへの貢献、困ったことがあれば協力しあえるようなおつきあい（51.9%：市民意識調査）</p>			

2 商店街の目指す将来像及び目標

<p>①商店街の目指す将来像</p>	<p>地域の安心・安全への貢献。 にぎわいのある街づくり。 地域のコミュニティセンター 公園のある安心して暮らせる便利な街づくりへの貢献</p>
<p>②基本目標 (4年後の達成目標数値)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・若手を中心としたメンバーによる定期的な勉強会を実施し、個店の強化を図る。売上が前年度よりアップした店舗数、および参加店舗数の目標を会員数の50%以上を目指す。 ・長年にわたり、当商店街は夏祭りなどの地域イベントを成功させてきた。それらのイベントのさらなる魅力アップを図る。そのために大学等の外部機関と連携する。これらにより、歩行者通行量の年3%アップ、商店街組合員数40を目標とする。

①事業名	夏祭りを活用した永新ゼミと逸品フェア
②実施予定時期	平成 29年 4月 ~ 平成 32年 3月
③具体的内容	<p>これまでに34回実施してきた夏祭りを継続して実施する。内容は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元住民およびタレントによるステージイベント ・ビアガーデン ・歩行者天国とした道路での模擬店 ・前後に逸品フェアと街ゼミ（「永新ゼミ」） <p>逸品フェアは、各店舗が、新製品やイチ押し製品などお客様に広めたい商品を自店で紹介するセールであり、これまでのワンコイン市に代わるものとして実施する。組合員にはイベントスタッフとしての参加ばかりでなく、出店者としての参加を再度促す。</p>
④必要性・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・夏祭りは34回実施。地元でも定着しており、楽しみにしている住民も多い。 ・夏祭りに訪れる外国人（近くにある社員寮に住む）も増えつつあり、彼らに対する日本流「おもてなし」をPRする機会になりつつある。 ・これらのイベントには地元自治会にも協力いただいております地域内コミュニケーションに大きく寄与している。 ・地元で開業している非組合員に対して、商店街振興組合をPRできる機会となっている。 ・地域および近隣住民に対して、各個店をPRできる貴重な機会となっている。 ・商店街人材の育成にも有用な事業である。
⑤ターゲット・コンセプト	地域住民と近隣の社宅や研修センターに住む居住年数の少ない住民
⑥事業費・採算性の説明	<p>ふれあい夏祭り費用</p> <p>会場設営費 ¥1,150,000</p> <p>印刷製本費 ¥350,000</p> <p>その他（謝金など） ¥175,000</p>
⑦新規取組内容、改善点（先導性、先進性、モデル性等）	<p>以下に示す新たな取組により、参加店の増加及び質的向上と個店への集客を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・折込チラシによるスタンプラリーの実施やHPによるイベントのPRについて若手組合員で役割分担して検討し実行する。 ・ワンコイン市に代わって「逸品フェア」とする。商品の価格のしばりを無くすことにより、お客様に本当に勧めたいものを紹介できる。 ・永新ゼミ（街ゼミ）では商店街の店主ばかりでなく組織外部の方の参加も可能とする。 ・若手組合員と大学との連携など外部機関との協力関係を構築する。 ・永新ゼミや逸品フェアでの出店内容の質的な改善を図るために人材育成事業を活用する。
⑧事業効果	若手組合員の育成と商店街及び個店の活性化により、活気ある商店街にする。
⑨目標 評価指標 測定手法	歩行者通行量（年3%アップ）を8月平日10:00~18:00で定点測定を行う。 売上がアップしたと答えた個店数が4年後に組合員の半数以上。調査は組合員へのアンケートによる。
⑩推進体制	若手組合員を中心とする活性化委員会と理事長が中心となり、愛知学泉大学、理事会、自治会が支援する。事業効果についても活性化委員会で毎年評価を行い、事業の見直しを行う。
⑪関連計画や事業（地域の動き等）	永覚新町人材育成事業

4 計画期間の事業スケジュール

	H29年度【1年目】	H30年度【2年目】	H31年度【3年目】	H32年度【4年目】
事業	4月～活性化委員会 6月～夏祭り実行委員会 8月 夏祭り開催 8月～にぎやか市準備 10月 にぎやか市(秋)開催 2月～にぎやか市(春)開催 3月 にぎやか市(春)開催	4月～活性化委員会 6月～夏祭り実行委員会 8月 夏祭り開催 8月～にぎやか市準備 10月 にぎやか市(秋)開催 2月～にぎやか市(春)開催 3月 にぎやか市(春)開催	4月～活性化委員会 6月～夏祭り実行委員会 8月 夏祭り開催 8月～にぎやか市準備 10月 にぎやか市(秋)開催 2月～にぎやか市(春)開催 3月 にぎやか市(春)開催	4月～活性化委員会 6月～夏祭り実行委員会 8月 夏祭り開催 8月～にぎやか市準備 10月 にぎやか市(秋)開催 2月～にぎやか市(春)開催 3月 にぎやか市(春)開催
予算(千円)	¥1,675,000	¥1,675,000	¥1,675,000	¥1,675,000
関連計画や事業	永覚新町人材育成事業	永覚新町人材育成事業	永覚新町人材育成事業	永覚新町人材育成事業
目標達成状況	歩行者通行量(8月平日) 412人 売上がアップしたと答えた 店舗数が組合員の40%以上	歩行者通行量(8月平日) 425人 売上がアップしたと答えた 店舗数が組合員の44%以上	歩行者通行量(8月平日) 440人 売上がアップしたと答えた 店舗数が組合員の48%以上	歩行者通行量(8月平日) 450人 売上がアップしたと答えた 店舗数が組合員の50%以上

①事業名	にぎやか市を活用した永新ゼミと逸品フェア
②実施予定時期	平成 29年 4月 ~ 平成 32年 3月
③具体的内容	<p>これまでに17回開催してきたにぎやか市を年二回（秋と春）開催する。60店舗以上の出店数を目標としてきたが、秋の開催時は未達であった。その結果を踏まえて、目標の見直しPR方法の改善を行う。</p> <p>全国から出店者を募り、秋葉神社の境内およびふれあいの館をメイン会場としてクラフトやアート作品の展示・実演・販売を行う。</p> <p>にぎやか市の前後に逸品フェアと街ゼミ（「永新ゼミ」）を実施する。</p> <p>逸品フェアは、各店舗が、新製品やイチ押し製品などお客様に広めたい商品を自店で紹介するセールであり、これまでのワンコイン市に代わるものとして実施する。</p> <p>組合員にはイベントスタッフとしての参加ばかりでなく、出店者としての参加を再度促す。</p>
④必要性・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・にぎやか市は17回実施してきた。地元でも定着しており、楽しみにしている住民も多い。 ・これらのイベントには地元自治会にも協力いただいております地域内コミュニケーションに大きく寄与している。 ・地元で開業している非組合員に対して、商店街振興組合をPRできる機会となっている。 ・地域および近隣住民に対して、各個店をPRできる貴重な機会となっている。 ・商店街人材の育成にも有用な事業である。 ・にぎやか市の出展希望者も中部圏以外からも応募があり、年々増加傾向にある。開催場所の確保により採算が取れる事業となるうる。
⑤ターゲット・コンセプト	地域住民と近隣の社宅や研修センターに住む居住年数の少ない住民
⑥事業費・採算性の説明	<p>にぎやか市費用</p> <p>会場設営費 ¥140,000</p> <p>印刷製本費 ¥770,000</p> <p>通信費 ¥90,000</p> <p>その他（装飾費など） ¥100,000</p>
⑦新規取組内容、改善点（先導性、先進性、モデル性等）	<p>以下に示す新たな取組により、参加店の増加及び質的向上と個店への集客を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベントのPR（折込チラシによるスタンプラリーの実施やHPによる告知）について若手組合員で役割分担して検討し実行する。 ・ワンコイン市に代わって「逸品フェア」とする。商品の価格のしぼりを無くすことにより、お客様に本当に勧めたいものを紹介できる。 ・永新ゼミ（街ゼミ）では商店街の店主ばかりでなく組織外部の方の参加も可能とする。 ・若手組合員と大学との連携など外部機関との協力関係を構築する。 ・永新ゼミや逸品フェアでの出店内容の質的な改善を図るために人材育成事業を活用する。
⑧事業効果	若手組合員の育成と商店街及び個店の活性化により、活気ある商店街にする。
⑨目標 評価指標 測定手法	<p>歩行者通行量（年3%アップ）を8月平日10:00~18:00で定点測定を行う。</p> <p>売上がアップしたと答えた個店数が4年後に組合員の半数以上。調査は組合員へのアンケートによる。</p>
⑩推進体制	若手組合員を中心とする活性化委員会と理事長が中心となり、愛知学泉大学、理事会、自治会が支援する。事業効果についても活性化委員会が毎年評価を行い、事業の見直しを行う。
⑪関連計画や事業（地域の動き等）	永覚新町人材育成事業

4 計画期間の事業スケジュール

	H29年度【1年目】	H30年度【2年目】	H31年度【3年目】	H32年度【4年目】
事業	4月～活性化委員会 6月～夏祭り実行委員会 8月 夏祭り開催 8月～にぎやか市準備 10月 にぎやか市(秋)開催 2月～にぎやか市(春)開催 3月 にぎやか市(春)開催	4月～活性化委員会 6月～夏祭り実行委員会 8月 夏祭り開催 8月～にぎやか市準備 10月 にぎやか市(秋)開催 2月～にぎやか市(春)開催 3月 にぎやか市(春)開催	4月～活性化委員会 6月～夏祭り実行委員会 8月 夏祭り開催 8月～にぎやか市準備 10月 にぎやか市(秋)開催 2月～にぎやか市(春)開催 3月 にぎやか市(春)開催	4月～活性化委員会 6月～夏祭り実行委員会 8月 夏祭り開催 8月～にぎやか市準備 10月 にぎやか市(秋)開催 2月～にぎやか市(春)開催 3月 にぎやか市(春)開催
予算(千円)	¥1,100,000	¥1,100,000	¥1,100,000	¥1,100,000
関連計画や事業	永覚新町人材育成事業	永覚新町人材育成事業	永覚新町人材育成事業	永覚新町人材育成事業
目標達成状況	歩行者通行量(8月平日) 412人 売上がアップしたと答えた 店舗数が組合員の40%以上	歩行者通行量(8月平日) 425人 売上がアップしたと答えた 店舗数が組合員の44%以上	歩行者通行量(8月平日) 440人 売上がアップしたと答えた 店舗数が組合員の48%以上	歩行者通行量(8月平日) 450人 売上がアップしたと答えた 店舗数が組合員の50%以上

①事業名	永覚新町人材育成事業
②実施予定時期	平成 29年 4月 ~ 平成 32年 3月
③具体的内容	<p>商店街による次世代の商店街人材の育成事業。次世代の商店街および個店に必要とされる知識やスキルは何であるのか検討し、それを身につけられるよう外部講師を招いて講習会を実施したり、組合員同士の情報交換、研修を行う。</p> <p>29年度前半は、必要とされる知識、スキルとプログラムの作成などを半年単位で行う。29年度後半より、実際の研修会などを順次実施していく。毎年、年度末には振り返りを行い、それに従って内容について見直しを行う。</p> <p>研修会では、接客サービス研修や字手紙による顧客獲得セミナーなど組合員の事業および永新ゼミなど商店街事業に役立つ内容を中心とする。</p>
④必要性・目的	<p>組織の新生と組織を維持拡大し、地域コミュニティの担い手となることが求められている。そのためには社会情勢の変化や技術の進歩に対応するための新しい取組が必要であり、商店街内部の若手の積極的な参加が不可欠である。</p> <p>・今後の商店街のみならず、各個店の経営にも役立つよう、情勢の変化や技術の進歩に対応できるスキルなどを見直し、その習得に努める。</p> <p>・対象者を商店街組合員ばかりでなく、地域内で事業を営む非組合員、地域住民とすることにより、新規組合員の獲得を目指す。</p>
⑤ターゲット・コンセプト	商店街組合員、地域内で事業を営む非組合員、地域住民。
⑥事業費・採算性の説明	講師謝金など 50万円（年3回以上の開催）
⑦新規取組内容、改善点（先導性、先進性、モデル性等）	<p>ITの講習会など、多数の組合員の要望に応じる形で講習会を中心として実施してきた。これにより基礎的な知識や技能の習得ができた。以上の成果を活用して、その成果を個店の強化と商店街運営および活性化にも活用できるようにする。</p> <p>・個店での実際の業務や商店街の活動で実際に役立つ内容へ見直し。例えばIT研修であれば、個店のHPを実際に作ってみるなど。</p> <p>・講師を招へいする講習会に限らない。自発的に組合員が集まって、永新ゼミ、逸品フェアなど商店街のイベントの内容についても相互で研鑽を図る。</p>
⑧事業効果	次世代商店街への若返りと各個店の売上増加。
⑨目標 評価指標 測定手法	<p>売上がアップしたと答えた個店数が4年後に組合員の半数以上。調査は組合員へのアンケートによる。</p> <p>参加者が4年後に組合員の半数以上。</p>
⑩推進体制	若手組合員を中心とする活性化委員会と理事長が中心となる。
⑪関連計画や事業（地域の動き等）	ふれあい夏祭り事業、にぎやか市事業

4 計画期間の事業スケジュール

	H29年度【1年目】	H30年度【2年目】	H31年度【3年目】	H32年度【4年目】
事業	～9月 活性化委員会による第一次計画策定 ～2月 講習会、セミナーへの参加 3月 事業見直しと次年度計画作成	～2月 講習会、セミナーへの参加 3月 事業見直しと次年度計画作成	～2月 講習会、セミナーへの参加 3月 事業見直しと次年度計画作成	～2月 講習会、セミナーへの参加 3月 事業見直しと次年度計画作成
予算（千円）	50万円	50万円	50万円	50万円
関連計画や事業	永覚新町にぎわい事業	永覚新町にぎわい事業	永覚新町にぎわい事業	永覚新町にぎわい事業
目標達成状況	歩行者通行量(8月平日) 412人 売上がアップしたと答えた店舗数が組合員の40%以上	歩行者通行量(8月平日) 425人 売上がアップしたと答えた店舗数が組合員の44%以上	歩行者通行量(8月平日) 440人 売上がアップしたと答えた店舗数が組合員の48%以上	歩行者通行量(8月平日) 450人 売上がアップしたと答えた店舗数が組合員の50%以上